

ふくしま経済

低炭素杯 環境大臣賞 賞準グランプリ

仲田種苗園(石川)受賞



司 茂 代表取締役 仲田

普及により、地球温暖化防止と地域の植生再現に取り組んでいることを紹介した。

また、これらの商品を都市部で使うことで都市に暮らす人の心を豊かにすることも示した。発表した仲田茂司代表取締役は「福島からの提案を評価しても

らうれしい」と話した。低炭素杯は実行委員会の主催。環境問題に取り組む企業・団体が地域活動、学生活動、企業活動、ソーシャルビジネスの四部門で発表した。

石川町の仲田種苗園は十八、十九の両日、東京の東京ビッグサイトで開かれた低炭素杯に県内で唯一出場し、最高賞に次ぐ環境大臣賞準グランプリ(ソーシャルビジネス部門一位)を受賞した。同社は「シードバンクを活用した地球温暖化防止と生物多様性復元」と題し発表した。中通りから関東地方内陸部に育つ野草を寄せ植えた商品「野の花マット」などの開発・

(第三種郵便物認可)

福島ブランドを発信

石川町の仲田種苗園(仲田茂司社長)は26日までに、低炭素な社会づくりに向けての優れた活動を発表する全国コンテスト「低炭素杯



2012」で環境大臣賞金賞を受けた。同賞は最高賞のグランプリに次ぐ賞で、同社が出品したソーシャルビジネス部門の最優秀賞に相当する。

自然に優しい生活提案

石川の仲田種苗園



環境大臣賞金賞のトロフィーと表彰状を手にする仲田社長(右)ら

低炭素コンテスト金賞

同社は、電力過剰消費を前提とした現在の都市生活を見直そうと「シードバンクを活用した地球温暖化防止と生物多様性復元」をテーマに発表した。県内の花などを寄せ植えた植生マット「野の花マット」を活用し、原発に頼らずに自然と共生する本県のライフスタイルを東京などで構築しようとする提案した。同マットは東京工大などの屋上緑化に使用され、夏の屋根直下階の室温を5度下げると、冷房使用に伴うCO2の削減効果が実証されている。さらに、四

季の花が植え込まれているため、チョウやトンボが集まるなど、人と生物が触れ合う場を提供できる。同コンテストは全国の学校、企業などから4部門で募り、1次審査を通過した41団体が低炭素活動日本一を目指した。仲田社長は「世界的にマインスのブランドとなってしまった『福島』をプラスのブランドに変え、世界に発信したい」と喜びを語った。